

3. 事業概要

(1) 常設展示

常設展示室は全体で5室の構成となっている。第1室は「山梨の文学風土」と「樋口一葉」コーナー、第2室は「山梨出身ゆかりの作家と作品」、第3室は芥川龍之介コーナー、第4室は飯田蛇笏・飯田龍太記念室、第5室は山梨出身・ゆかりの作家104名をジャンルごとに年2回入れ替えて紹介している。

常設展示室の第1～4室は、下記のとおり春夏秋冬にあわせて年4回、一部の資料の入れ替えを行い、第1室の一面にコーナーを設け、期間限定で資料を公開した。また、6月9日（火）～8月30日（日）の夏の常設展の期間に第1室で「戦後70年 甲府空襲の記憶」をテーマに井伏鱒二、太宰治の資料の展示を行い、平成28年1月23日（土）～3月13日（日）の間、全国文学館協議会共同展示「3.11文学館からのメッセージ—天災地変と文学」として樋口一葉コーナーで書簡の展示を行った。

以下の資料一覧には、平成27年3月17日（火）～平成28年3月13日（日）の間、常設展示室に出品した資料すべてを提示した。

第1室

期間限定公開

◆春の常設展 3/17（火）～6/7（日）武田百合子 原稿 ほか

- ・武田百合子「富士日記序文」原稿
- ・「海」1976（昭和51）年12月 武田泰淳追悼特集
- ・武田百合子「日日雑記」原稿
- ・武田百合子『日日雑記』1992（平成4）年7月 中央公論社

◆夏の常設展 6/9（火）～8/30（日）若山牧水生誕130年

- ・若山牧水 飯田蛇笏宛書簡 1911（明治44）年6月1日
- ・若山牧水歌碑拓本「甲斐の国小ふちさはあたりの高はらのあきすゑつかたの雲のよろしさ」
- ・若山牧水『黒松』1938（昭和13）年9月 改造社
- ・「新潮」第25年第1号 1928（昭和3）年1月

【同時開催】戦後70年 井伏鱒二、太宰治 戦争の記憶

- ・太宰治 井伏鱒二宛書簡 1945（昭和20）年8月（推定）
- ・太宰治『薄明』1946（昭和21）年11月 新紀元社
- ・太宰治 青木辰雄宛葉書 1945（昭和20）年10月30日
- ・井伏鱒二「二つの話」原稿

◆秋の常設展 9/1（火）～11/29（日）金子光晴 生誕120年・歿後40年

- ・金子光晴「牡丹」原稿
- ・金子光晴「僕はゆく湖のながい汀にそうてはてしもしらず 蛾の屍の柔らかと踏をふんで」色紙
- ・金子光晴『蛾』1948（昭和23）年9月 北斗書院

◆冬の常設展 12/1（火）～3/13（日）秋山秋紅蓼 生誕130年

- ・秋山秋紅蓼「壺中天地ありこゝに一個の密柑を置く」自画賛 軸装
- ・「河鹿」第1巻第1号 1907（明治40）年12月
- ・「河鹿」第1巻第2号 1908（明治41）年4月
- ・「層雲」第4巻第5号 1914（大正3）年8月
- ・秋山秋紅蓼『夜の富士』1931（昭和6）年9月 大象社
- ・秋山秋紅蓼『兵隊と桜』1940（昭和15）年1月 沙羅書店
- ・秋山秋紅蓼『俳句表現論』1958（昭和33）年10月 層雲社
- ・秋山秋紅蓼『梅花無限』1965（昭和40）年10月 早春句会

- ・秋山秋紅蓼「俳句四格調の説」原稿
- ・秋山秋紅蓼 スケッチブック

山梨の文学風土

甲斐のうた（パネル展示）

酒折の宮／塩の山・差出の磯／都留の郡／甲斐の牧

松尾芭蕉と甲州

杉山杉風「芭蕉翁馬上吟図」軸装〈複製〉原本 天理大学附属天理図書館蔵
 松尾芭蕉 森川許六宛書簡 元禄5年11月13日 軸装〈複製〉原本 個人蔵
 高山麿埜 一瀬調実宛書簡 年不明12月19日〈複製〉原本 個人蔵
 猪来編『蓑虫庵小集』文政7年自序〈複製〉原本 天理大学附属天理図書館蔵

甲州の紀行文

深草元政『身延道の記』元禄17年刊
 荻生徂徠『徂徠集』卷之十五 元文元年序文「峡中紀行」収録
 賀茂季鷹『富士日記』文政6年刊

甲府学問所 徽典館

甲府勤番支配宛 徽典館学頭任命通知書
 乙骨耐軒「維新亨齋詩初稿」
 乙骨耐軒「甲役途中詩」

国学を学んだ人々

萩原元克編『甲斐名勝志』天明3年9月刊
 萩原元克「うまひとの」短冊
 本居宣長点 辻守瓶「春十首」和歌

樋口一葉（ひぐち いちよう）

木村荘八 画「たけくらべ絵巻」控画稿（筆屋）
 樋口一葉 伊庭隆次宛書簡 1893（明治26）年4月24日
 樋口一葉 樋口くら宛葉書 1896（明治29）年5月13日
 樋口一葉 田中為重宛葉書 1896（明治29）年5月19日
 青海学校修了証書 1882（明治15）年5月
 樋口一葉 伊庭隆次宛書簡 1892（明治25）年7月28日
 樋口一葉 半井桃水宛書簡 1892（明治25）年秋
 馬場孤蝶「一葉の住みし町なり夕時雨」軸装
 幸田露伴「一葉女史日記の後に書す」原稿
 鏑木清方 画「大黒屋の美登利」軸装
 木村荘八「たけくらべ絵巻」画稿 酉の市夜の吉原
 「たけくらべ」未定稿
 樋口一葉 半井桃水宛書簡 1892（明治25）年秋
 愛用の筆立て
 「本郷五丁目」草稿軸装
 感想・聞書9（残簡その三）卷子
 一葉筆手習い帖「徒然草」「竹取物語」「伊勢物語」
 愛用のしおり

新五千円札 (A000006A番)
青海学校小学高等科第四級卒業證書
一葉愛用の筆立て
一葉愛用の髪飾り・櫛・こうがい
一葉旧蔵 短冊ばさみ
写真パネル 母多喜・奈津 (7歳頃)・姉ふじ・妹くに 本郷6丁目5番屋敷時代
写真パネル 左から次兄・虎之助、父・則義、長兄・泉太郎
樋口虎之助作 薩摩焼絵付皿
写真パネル 萩の舎集合写真
写真パネル 半井桃水
写真パネル 竹内桂舟 画「うもれ木」第7回挿絵
写真パネル 文学界同人
「武蔵野」第1輯 (複製) 1892 (明治25)年3月 今古堂
樋口一葉「たけくらべ」原稿 (複製)
「文芸倶楽部」第2巻第5号 1896 (明治29)年4月
「にごりえ」台本 1962 (昭和37)年9月 新橋演舞場
樋口一葉「ゆく雲」未定稿 (複製)
写真パネル 一葉女史の碑建碑の日 1922 (大正11)年10月15日
馬場孤蝶 編集・校訂『一葉全集』前編 1912 (明治45)年5月 博文館

第2室

井伏鱒二 (いぶせ ますじ)

井伏鱒二「はなにあらしのたとへもあるぞさよならだけが人生だ 花発多風雨 人生足別離」軸装
井伏鱒二「はるのねざめのうつゝ、できけばとりのなくねでめがさめました 春眠不覚曉 処々聞啼鳥」
軸装
井伏鱒二 絵付皿
井伏鱒二「青柳瑞穂と骨董」原稿
井伏鱒二「送状」額装
井伏鱒二「螢の季節」原稿
映画「黒い雨」ポスター・パンフレット
井伏鱒二「今宵は仲秋明月初恋を偲ぶ夜…」軸装
井伏鱒二「十一月二十四日記」原稿
井伏鱒二「歳末閑居一節」額装
井伏鱒二「近逢春時」額装
井伏鱒二「子熊のクロ」原稿
映画「黒い雨」ポスター・パンフレット
写真パネル 1963年4月16日 枳代川の釣行で 井伏鱒二、山角司、飯田龍太、小林富司夫
撮影宅間正一
井伏鱒二『山椒魚』1976 (昭和51)年9月 成瀬書房
井伏鱒二『黒い雨』1966 (昭和41)年10月 新潮社
井伏鱒二「本日休診」原稿 (複製)
井伏鱒二『本日休診』1950 (昭和25)年6月 文藝春秋社
井伏鱒二『小黑坂の猪』1974 (昭和49)年7月 筑摩書房
井伏鱒二『岳麓点描』1986 (昭和61)年4月 弥生書房
愛用の釣り竿と魚籠

太宰 治 (だざい おさむ)

太宰治 高田英之助宛書簡 1939 (昭和14)年1月11日消印 (複製)
写真パネル 甲府市水門町 (現・朝日1丁目)の石原家玄関横で 1939 (昭和14)年元旦

銀座のバー・ルパンで 1946 (昭和21) 年 撮影 林忠彦
三鷹の古本屋にて 撮影 田村茂
太宰治 井伏鱒二宛書簡 1938 (昭和13) 年8月11日
太宰治「斜陽」草稿 複製
写真パネル 陸橋 (三鷹電車庫跨線橋) にて 1948 (昭和23) 年3月 撮影 田村茂
太宰治 井伏鱒二宛書簡 1938 (昭和13) 年10月31日消印
太宰治 浅見淵宛書簡 1935 (昭和10) 年11月18日消印
太宰治「ア、秋」原稿
太宰治文学碑「富士には月見草がよく似合ふ」(表面) 拓本幅
太宰治文学碑 撰文(裏面) 拓本幅
太宰治『女生徒』1939 (昭和14) 年4月 砂子屋書房
太宰治『右大臣実朝』1943 (昭和18) 年9月 錦城出版社
太宰治「陰火」原稿 (複製)
太宰治『晩年』1936 (昭和11) 年6月 砂子屋書房

檀 一雄 (だん かずお)

檀一雄「自画像」額装
映画「火宅の人」ポスター・パンフレット 1986 (昭和61) 年 東映
檀一雄「秋果百韻」額装
檀一雄「酔余二陶の図」額装
愛用のワインボトルの籠
檀一雄 中国でのスケッチブック
檀一雄「太郎生後九十四日」額 (複製)
写真パネル 能古島の草庵「月壺洞」にて 1975 (昭和50) 年
檀一雄「旅立ち」原稿 (複製)
檀一雄『リツ子・その愛』『リツ子・その死』1950 (昭和25) 年4月 作品社
檀一雄「微笑」(『火宅の人』第1章) 原稿 (複製)
檀一雄『火宅の人』特装本 1979 (昭和54) 年6月 新潮社
檀一雄『真説石川五右衛門』1951 (昭和26) 年9月 新潮社

山本周五郎 (やまもと しゅうごろう)

山本周五郎「青べか物語」原稿
「赤ひげ」ポスター 1965 (昭和40) 年 東宝
山本周五郎「多忙」原稿
映画「赤ひげ」パンフレット 1965 (昭和40) 年 東宝
山本周五郎「季節のない街」草稿と新聞切り抜き
山本周五郎「やぶからし」原稿
映画「五瓣の椿」ポスター 1964 (昭和39) 年 松竹
「さぶ」ちらし 新橋演舞場
写真パネル 秋山青磁 撮影 映画館
写真パネル 秋山青磁 撮影 書齋 間門園にて
山本周五郎『赤ひげ診療譚』1959 (昭和34) 年2月 文藝春秋新社
山本周五郎『さぶ』1963 (昭和38) 年8月 新潮社
山本周五郎「夏草戦記」原稿 (複製)
山本周五郎『夏草戦記』1945 (昭和20) 年3月 八雲書店
山本周五郎「わが野鳥たち」原稿 複製
山本周五郎『山彦乙女』1952 (昭和27) 年2月 朝日新聞社
山本周五郎『甲州小説集』1974 (昭和49) 年8月 実業之日本社

深沢七郎（ふかさわ しちろう）

深沢七郎 川久保正郎宛葉書 1960（昭和35）年4月2日
深沢七郎 川久保正郎宛葉書 1961（昭和36）年8月15日
深沢七郎 京谷秀夫宛葉書 1961（昭和36）年10月12日消印
今川焼屋「夢屋」包装紙 デザイン 横尾忠則
高橋忠弥画「ろまんさ」カット・挿絵原画
深沢七郎「ギター独奏集 祖母の昔語り」レコード 1973（昭和48）年 日本コロムビア
映画「檀山節考」ポスター 1983年
写真パネル 夢屋にて 撮影 佐藤真樹
深沢七郎「檀山節考」原稿（複製）
「中央公論」第71年第12号 1956（昭和31）年11月
深沢七郎『檀山節考』1957（昭和32）年2月 中央公論社
『檀山節考』出版記念会次第
映画「檀山節考」プログラム 1958（昭和33）年4月 映画タイムス社
深沢七郎「笛吹川」草稿（複製）
深沢七郎『笛吹川』1958（昭和33）年4月 中央公論社
映画「笛吹川」パンフレット 1960（昭和35）年

山崎方代（やまざき ほうだい）

山崎方代「ふるさとの右左口郷は骨壺の底にゆられて吾が帰る村」軸装
山崎方代「水晶の青い峠の頂きになんぢやもんぢの木が立つてゐる」軸装
山崎方代「茶碗の底に梅干の種が二つ並びをるこれが愛というものなのだ」短冊
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」短冊
山崎方代「山さくら花の盛りとなりにけり鎌倉山の春深くして」短冊
山崎方代「ほんとうの酒がこの世にありし時父もよいたり吾もよいにき」軸装
山崎方代「亡き母のふるさとに来て腹赤き蟹の子供を吹き散すなり」軸装
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」色紙
山崎方代「つむがりの白い小さき耳なりき沖には月が登りつつあり」短冊
山崎方代「亡き姉よ今御嶽の頂にのぼりて昼の星見けたり」短冊
山崎方代「大きな波が寄せて来る大きな笑いが笑い出したり」短冊
山崎方代「おそろしきこの夜の山崎方代を鏡の奥につき落すべし」軸装
山崎方代「一枚の赤き木の葉がとこしえに木曾谷深く舞ってゆく」軸装
山崎方代「柿の実が梢に赤いなれど私は役たたずなり」一枚物
山崎方代「裏の柿の木に日が当りいて女は遠方にある」一枚物
山崎方代「茶ぶ台の上の土瓶に心中をうちあけてより楽になりたり」短冊
山崎方代「広辞苑辞書を枕にかけめぐる半偈の夢を見ることにする」短冊
方代旧蔵の『広辞苑』
山崎方代「ことごとと雨戸を叩く春の音鍵をはずして入れてやりたり」軸装
山崎方代「つむがりの白いせつない耳なりき沖には月が登りつつあり」額装
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」短冊
山崎方代「底ごもる深いつぶやき静まりて罇の壺はおわしましたり」短冊
山崎方代「去年の雪いづくにありや野ぶどうはひそひそ白き萼をこぼしおり」色紙
山崎方代「ほんとうに泣けば涙が出でて来る雪割草は白い花なり」色紙
写真パネル 湯川晃敏氏撮影
方代愛用の品 拡大鏡 眼鏡 万年筆 茶碗
山崎方代『方代』1955（昭和30）年10月 山上社
山崎方代『右左口』1973（昭和48）年12月 短歌新聞社
山崎方代『こおろぎ』1980（昭和55）年11月 短歌新聞社
山崎方代『迦葉』1985（昭和60）年11月 不識書院

中村星湖（なかむら せいこ）

中村星湖「少年行」原稿〈複製〉
「早稲田文学」第18号 1907（明治40）年5月
中村星湖『少年行』現代代表作叢書第12篇 1915（大正4）年10月 植竹書院
田山花袋 中村星湖宛書簡 1924（大正13）年9月23日
中村星湖『うら富士雑話Ⅰ』草稿
島崎藤村 中村星湖宛書簡 年不明9月23日
中村星湖「富士五湖の話」原稿
中村星湖 川島順平宛書簡 1929（昭和4）年1月29日

前田 晁（まえだ あきら）

三木露風 前田木城宛書簡 1909（明治42）年2月4日
前田晁「六月二十八日」原稿
三木露風 前田晁宛書簡 1910（明治43）年7月5日
コナン・ドイル作 前田晁訳「三代目」原稿
宇野浩二 前田晁宛書簡 1930（昭和5）年8月23日
前田晁「クオレ」についての講演原稿
高村光太郎 前田晁宛葉書 1911（明治44）年2月9日
田山花袋筆「文章世界」創刊号立案〈複製〉
小出楯重画「文章世界」第15巻第11号表紙原画〈複製〉1920（大正9）年11月
前田晁『少年国史物語』原稿〈複製〉

三井甲之（みつい こうし）

三井甲之「山上憶良」原稿
三井甲之「うつりやすきこのよのたのしみうたにうたひとはにかたみとせむはたのしき」短冊
「アカネ」創刊号表紙原案 1908（明治41）年2月〈複製〉
三井甲之「海の波よせてはかへすと思ふよりもよせてはかへすうねりを見たまへ」短冊
三井甲之「落日」歌稿
愛用の煙草入れと懐中時計
三井甲之「大須賀乙字の追憶」原稿
三井甲之「自然ノ威力ニ死スルワレモマタ自然ナリ」短冊
三井甲之「ふる雪にうつみて見えぬ伏屋にも隣にかよふ道はありけり」
長塚節 三井甲之宛書簡 1908（明治41）年（推定）1月8日〈複製〉
三井甲之愛用の品 ペン皿
三井甲之『短歌概論』1930（昭和5）年10月 しきしまのみち会

中里介山（なかざと かいざん）

中里介山 後閑林平宛葉書 1920（大正9）年1月1日
中里介山 後閑林平宛葉書 1923（大正12）年1月1日
中里介山「大菩薩峠 流転の巻」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵
中里介山「大菩薩峠 他生の巻」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵
中里介山『大菩薩峠』1918（大正7）年11月 玉流堂
中里介山『大菩薩峠』1919（大正8）年4月 玉流堂
「大菩薩峠」新国劇パンフレット
「隣人之友」通巻84号 1933（昭和8）年12月

伊藤左千夫（いとう さちお）と山梨の歌人たち

伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年7月6日消印
日原無限ほか「地方歌会 甲斐楓会（題 苔）」原稿

神奈桃村「岩窟に安置されたる百体の石の看音見てまわりけり」短冊
岡千里「糸さくら風にちりつゝくれなるのつばきはいたみたまたまにおつ」短冊
伊藤左千夫「よもつくにの道の長手をよろつたひかへりみすらむ旅の子ゆへに」短冊
伊藤左千夫 岡千里宛葉書 1906（明治39）年2月14日消印、5月25日消印
岡千里「永劫に山河亡ひす落椿すぎたる人の慕はしきかも」短冊
神奈桃村日記 第2号 1916（大正5）年10月15日～1922年2月28日
日原無限「真鏡と空澄渡りはらはらと木の葉を拂ふ初冬の風」短冊
伊藤左千夫「敷妙の家のうちとの物みななきよきにきほひ咲ける花かも」短冊
伊藤左千夫 岡千里宛書簡 1911（明治44）年12月11日
岡千里「落椿みだれて赤き花屑に日輪黒くはめてある如し」短冊
日原無限「時雨空霽れなむとする雲の色彼の雲の色よ君が心に」一枚物
岡千里「あかつきを囀りそめて落椿地上に赤くぬれにゐれたり」短冊
神奈桃村「岩窟のおくまるところ真かゝやく黄金の像一寸八分」短冊
神奈桃村 岡千里宛葉書 1910（明治43）年1月3日消印
「馬酔木」第3巻第2号 1906（明治39）年2月
「馬酔木」第3巻第6号 1906（明治39）年10月（復刻）
「アラゝギ」第2巻第1号 1909（明治42）年9月

秋山秋紅蓼（あきやま しゅうこうりょう）

秋山秋紅蓼「チュリップ」句稿
秋山秋紅蓼 水彩画「八仙花」
秋山秋紅蓼「木々の中青き世界が薄く濃く眼を病んでいる」他句稿
秋山秋紅蓼「非実践的なもの」草稿
秋山秋紅蓼「桃」素描
秋山秋紅蓼「勝沼」原稿
秋山秋紅蓼「柘榴」素描
秋山秋紅蓼「バラの咲いた朝で夢の話をしてゐる」短冊
秋山秋紅蓼「樺大樹を一本もち富士の真白さが真向う」短冊
「増穂南中学校校歌」楽譜
秋山秋紅蓼「故里」句稿
秋山秋紅蓼『兵隊と桜』1940（昭和15）年1月 沙羅書店
秋山秋紅蓼「俳句四格調の説」原稿（複製）

田中冬二（たなか ふゆじ）

田中冬二「若葉雨」自筆句集
田中冬二「夏山のかぶさつてゐる小駅かな」短冊
田中冬二「麦藁帽子の感覚—四季の思い出—」草稿
田中冬二「秋」原稿
田中冬二「柿の葉かげし水冷やか鮓をおす」短冊
田中冬二「正月の顔」草稿
田中冬二『青い夜道』1929（昭和4）年12月 第一書房
田中冬二「奈良田にて」色紙 複製
田中冬二「夏の魅惑」原稿
田中冬二 深沢正志宛書簡 1964（昭和39）年4月9日（複製）

木々高太郎（きぎ たかたろう）

江戸川乱歩 木々高太郎宛書簡 1937（昭和12）年（推定）2月25日
木々高太郎「夜をこめて囁く如し哲学を恋をねたみをわが耳鳴りは」色紙
木々高太郎「殺人鬼に罫をかける」原稿
小栗虫太郎 木々高太郎宛葉書 1937（昭和12）年2月10日

木々高太郎『笛吹』1948（昭和23）年3月 世界社
木々高太郎「笛吹 一或るアナキストの死」原稿（複製）
「シュピオ」第3巻第5号 1937（昭和12）年6月

小尾十三（おび じゅうぞう）

小尾十三「からすの親子」草稿
小尾十三「青き大麦畠にて」原稿
「文藝春秋」第22巻第12号 1944（昭和19）年12月
小尾十三『雑巾先生』1945（昭和20）年2月 満洲文藝春秋社
小尾十三「母への反抗時代」原稿（複製）
小尾十三「親子だるま」原稿
小尾十三「しつけ糸」原稿

村岡花子（むらおか はなこ）

村岡花子「子どものことば」原稿
村岡花子「彼と彼女」原稿
村岡花子「随筆の生まれるとき」原稿
モンゴメリ『ANNE OF GREEN GABLES』複製
村岡花子『赤毛のアン』1952（昭和27）年5月 三笠書房
村岡花子『赤毛のアン』翻訳原稿（複製）
村岡花子『随筆集 心の饗宴』1941（昭和16）年4月 時代社
村岡花子『ヘレン・ケラー 20世紀の奇跡』1964（昭和39）年3月 偕成社

徳永寿美子（とくなが すみこ）

徳永寿美子「先頃、京都の同志社女子大生十二人が…」草稿
徳永寿美子「いまの小学生たちを見ますと…」草稿
徳永寿美子「さむいさむいあさです」草稿
徳永寿美子「小公子」原稿 複製
徳永寿美子『小公子』1948（昭和23）年5月 広島図書
徳永寿美子『小公子』1956（昭和31）年1月 偕成社
「母」第6年第8号 1920（大正9）年8月（複製）原本 成蹊学園学園史料室蔵
徳永寿美子『薔薇の踊り子』1921（大正10）年2月 アルス（複製）

八木義徳（やぎ よしのり）

八木義徳「花盛りの一日」原稿
八木義徳「第三次早稲田文学が復刊されたのは…」草稿
八木義徳「昭和四十年代…」草稿
八木義徳「私と甲州」原稿
「満洲観光聯盟報」第5巻第6号 1941（昭和16）年6月
八木義徳『母子鎮魂』1948（昭和23）年3月 世界社
八木義徳『風祭』1976（昭和51）年8月 河出書房新社
尾崎一雄 八木義徳宛葉書 1974（昭和49）年12月22日
『八木義徳全集』第1・4巻 1990（平成2）年3月 福武書店 妻正子に宛てた献辞入

武田泰淳（たけだ たいじゅん）

司修『富士』挿絵エッチング
武田泰淳「聖女侠女」原稿
「海」第1巻第5号 1969（昭和44）年10月
武田泰淳『富士』1971（昭和46）年11月 中央公論社

武田泰淳「わが子キリスト」原稿〈複製〉原本 日本近代文学館蔵
武田泰淳『わが子キリスト』1968（昭和43）年12月 講談社

李良枝（イ・ヤンジ）

李良枝「ナビ・タリョン」草稿
李良枝「あにごぜ」草稿
李良枝「かずきめ」草稿
李良枝「碧落」草稿
李良枝『由熙』1989（平成元）年2月 講談社
ソウル大学卒業証書
芥川賞正賞の記念品
愛用の筆筒、文具類

辻 邦生（つじ くにお）

辻邦生「埴谷雄高氏との出会い」原稿
辻邦生「君を夏の一日に喩えようか…」（シェイクスピア「ソネット」の一部 吉田健一訳）色紙
辻邦生「含羞のエロス」原稿
辻邦生 大澤宏孝宛書簡 1990（平成2）年1月5日
「海」創刊特大号 1969（昭和44）年7月
辻邦生『銀杏散りやまず』1989（平成元）年9月 新潮社
「新潮」1982（昭和57）年2月

第3室 芥川龍之介

【大川の水（誕生・少年期）】

伯母のふきが使った長唄稽古本
「牛乳の用法」パンフレット 1904（明治37）年11月 耕牧舎
愛用の水泳帽
暑中休暇日誌 1908（明治41）年7月21日～8月31日
芥川龍之介「我輩も犬である」原稿
芥川龍之介「義仲論」原稿「東京府立第三中学校学友会雑誌」1910（明治43）年2月掲載
「東京府立第三中学校学友会雑誌」第15号 1910年2月

【空中の火花（文壇登場）】

菅虎雄筆「我鬼窟」扁額〈複製〉
芥川龍之介「鼻」草稿「新思潮」1916（大正5）年2月掲載〈複製〉
「新思潮」創刊号 1916（大正5）年2月
夏目漱石『社会と自分』1915（大正4）年11月 実業之日本社
芥川龍之介「葬儀の記」原稿〈複製〉
芥川龍之介「秋」草稿
芥川龍之介『傀儡師』1919（大正8）年1月 新潮社
芥川龍之介『点心』1923（大正11）年5月 金星堂
芥川龍之介『支那遊記』1925（大正14）年11月 改造社

【ぼんやりした不安（苦悩と死）】

芥川龍之介筆「澄江堂十首」卷子〈複製〉原本 天理大学附属天理図書館蔵
『近代日本文藝読本』全5巻 1925（大正14）年11月 興文社
芥川龍之介『湖南の扇』1927（昭和2）年6月 文藝春秋社出版部

芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」原稿「改造」1927（昭和2）年4月掲載〈複製〉
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿「改造」1927（昭和2）年10月掲載〈複製〉

【書画の魅力】

芥川龍之介 菅虎雄宛書簡 1913（大正2）年11月19日
芥川龍之介 朝鮮半島の地図
芥川龍之介 水彩画 女性像 1910（明治43）年
芥川龍之介「抱虚懐欲歩古今」額装
芥川龍之介 佐藤春夫宛書簡 1925（大正14）年5月29日
芥川龍之介 詩「風にまひたる菅笠の」額装
芥川龍之介「主ぶり」軸装
芥川龍之介 水彩画 農村の風景 1909（明治42）年
芥川龍之介 水彩画 花
芥川龍之介 水彩画 男性像

【芥川の俳句】

芥川龍之介「金を練る籠も古りて蚊食鳥」ほか俳句草稿
芥川龍之介「麦秋の茜の産衣縫ひけらし」ほか俳句草稿
芥川龍之介「風光る若葉盛りけり東山」ほか俳句草稿
芥川龍之介「炎天にあがりてきえぬ箕のほこり」短冊
芥川龍之介「蝙蝠や灯入りの月に人ふたり」ほか俳句草稿
芥川龍之介「沼のべの柳もぞろと霞みけり」ほか俳句草稿
芥川龍之介「喇嘛寺のさびしさつげよ合歡の花」ほか俳句草稿
芥川龍之介「秋鯖やあだ塩とくる一日干し」ほか俳句草稿
芥川龍之介「ほがらなる月に落葉の匂ふかな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「巻煙草けむりの垂るる夜長かな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「土雛や鼻の先から日の暮るる」俳句草稿
芥川龍之介「町かどや入り日片照るひと茂り」俳句草稿
芥川龍之介「盆梅の枝にかかるや梅のひげ」俳句草稿
芥川龍之介「山もとの夜長を笠のゆくへかな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「木がらしの海吹き風げるたまゆらや」ほか俳句草稿
芥川龍之介 飯田蛇笏宛書簡 1923（大正12）年12月1日〈複製〉
飯田蛇笏 芥川龍之介宛書簡 1926（昭和元）年12月29日〈複製〉
「ホトトギス」1918（大正7）年9月
「ホトトギス」1919（大正8）年3月
芥川龍之介『梅・馬・鶯』1926（大正15）年12月 新潮社〈復刻〉
「雲母」1927（昭和2）年9月号
『澄江堂句集』1927（昭和2）年12月 文藝春秋社

【芥川と山梨】

芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」幅〈複製〉
芥川龍之介「水虎晚帰之図」額〈複製〉
芥川龍之介 山本喜誉司宛書簡 1910（明治43）年10月14日〈複製〉
芥川龍之介 山梨夏期大学講演メモ〈複製〉

【羅生門】

「羅生門」関連ノート〈複製〉
芥川龍之介『羅生門』1917（大正6）年5月 阿蘭陀書房〈復刻〉
芥川龍之介『鼻』1918（大正7）年7月 春陽堂〈復刻〉

【友への手紙】

芥川龍之介 井川恭宛書簡 1914（大正3）年1月21日（複製）

原本 大阪市立大学学術情報総合センター恒藤記念室蔵

【夏目漱石の手紙】

夏目漱石 久米正雄・芥川龍之介宛書簡 1918（大正7）年8月21日（複製）

【芥川と児童文学】

「赤い鳥」創刊号 1918（大正7）年7月

芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿（複製）

芥川龍之介「杜子春」原稿（複製）

芥川龍之介『三つの宝』1928（昭和3）年6月 改造社（複製）

芥川龍之介作 楽焼皿「小心火盗」

『芥川龍之介全集』（1934年岩波書店）予約募集の凸版

愛用のペーパーナイフ

自筆俳句入扇面「明星のちろりにひびけほととぎす」

第4室 飯田蛇笏・飯田龍太記念室

【境川村小黒坂】

蛇笏・龍太使用の硯 億兆会贈呈。木製蓋付き。雨畑硯。

飯田家家相図 1899（明治32）年

【飯田蛇笏】

写真パネル 早稲田大学時代の蛇笏

「ホトトギス」第12巻第1号 1908（明治41）年10月「俳諧散心号」（複製）

若山牧水 飯田蛇笏書簡 1910（明治43）年8月22日

「国民新聞」切り抜き

飯田蛇笏「いもの露連山影を正しうす」句額 1914（大正3）年（複製）原本 個人蔵

「ホトトギス」1914（大正3）年11月「芋の露」巻頭号（パネル）

「ホトトギス」雑詠欄投稿（複製）原本 天理大学附属天理図書館蔵

「キララ」創刊号 1915（大正4）年5月（複製）原本 東京都近代文学博物館蔵

「キララ」第2号 1915（大正4）年6月（複製）原本 東京都近代文学博物館蔵

飯田蛇笏「魂のたとへばあきの蛸かな」額装 1927（昭和2）年（複製）

飯田蛇笏「夏山や又大川にめぐりあふ」幅 1919（大正8）年

飯田蛇笏「落月を踏む尉いでし神楽哉」軸装 1930（昭和5）年

写真パネル 家族と庭前で 1917（大正6）年撮影

飯田蛇笏『山廬集』1932（昭和7）年12月 雲母社 装幀 川端龍子

飯田蛇笏『山廬集』序文原稿（複製）

高浜虚子『進むべき俳句の道』1918（大正7）年7月 実業之日本社

村上鬼城「花ちるや耳ふつて馬のおとなしき」色紙

村上鬼城「瘦馬のあはれ機嫌や秋高し」短冊

渡辺水巴「秋風やつくゑの上の小人形」短冊

渡辺水巴「土雛はむかし流人や作りけん」色紙

前田普羅「荒梅雨や山家の煙這ひまはる」短冊

前田普羅「山桃の日かげと知らで通りけり」短冊

原石鼎「爐ひらいて人をたゝへん心哉」短冊